

18禁



フタナリ対魔忍
雌豚妊娠調教

生猫亭

fou adult only

2017. 12. 31

namanecotei

「アハハ ずいぶんと
素敵な身体になったじゃない♪
アサギ♪」

「似合ってるわよその
フタナリ巨大チンポ♪
それにその淫紋も…
アハハそれにしても何あんた
凄んでるくせにチンポはうフル勃起
じゃない♪」

「っく…臃」

「もしかして私を笑いじにさせる作戦なの？」

「う、うるさい
黙れ！誰の
せいだと！！」

「それよりはやく元に戻しなさい…
そうすれば楽に殺してあげるわよ…」

「あらあら、自分の立場がまるでわかって
ないなんて…相変わらずおバカさんね…
それじゃあ解らせてあげる♡」

「メス豚のポーズ…」

「うぎいい金玉あぁあ☆」

「ほら！オマケよ」

「チンポ！チンポいぐ…」

バムム

バムム

いぐう

ゴウ！！

「おおおほおおん
なんでえええ
金玉蹴られて死ぬほど痛いのに
痛いのがぎぼちい〜〜♥
まさか…お、おぼろ〜〜★」

「アハハ気づいた？アタの
その体は痛いのが気持ちよくて
たまらないドスケベマゾボディ
になったってわけ♪どう？嬉しい？」

「アハハそんなこといいながら
金玉蹴られてるのにさっきから
イキっぱなしじゃないか
このマゾ豚が！それぞれ！！」

びゅる

びゅる

うらうらうら

ドン

「嬉しいわけありゆかあぁあ！
いますぐ元にもどしええええ
あへええイグ いぐうう」

うほく〜おおあ
いぐううチンポホく〜♥

「あげ、あぎよ
おぎよおおお
おによれえええ
おぼろおお♥
おおおいぐうう♥
金玉いぐうう♥」

ドン

「くそ…誰がこんな臭い…腫のチンポなぞ…」

「ほら 散マイカせてやったんだ 今度は私のチンポをしゃぶって 気持ちよくじなさい…アサギ」

「あはっ必死に抵抗してるみたいだけど もうすっかりマンコみたいに口はチンポを求めてるわよ」

「なんだこの臭はダメだ 頭おかしくなる…も、もう我慢が…」

「そうよアンタを犯すためにわざわざ付けたんだから しっかりじゃぶりなさい」

「なっ！ 貴様にもチンポが…」

「悔しそう顔してもダメよ アンタは私のいいなりなんだから ほんらもつと口をすぼめてチンポ吸いなさい！」

「アハハ何？ 30秒も我慢できなかったわね」

「ぶほおおおん！」

「それに悔しそう顔してるわりにすごい吸い付き…まるでタコね♪ アサギ♥どう？ アタシのチンポ美味しくてたまないでしょ？」

「お口の感度もマンコ並に改造済だから 口だけでイケるはずよアンタ」 わかる？ ロマンコよ♥ク・チ・マ・ン・コ♪」

「アハハぶほおおおん」だって馬面で吸い付くから馬かと思つてたけど家だよね？」

それじゃあ豚らしい顔にしてあげるわ きゃははホントに豚みたいw ほらプビプビないでごらん まあ逆らつても無駄だけだね」

「く、口が勝手にぶほおお、プビプビぶほおおおん★おによれええ プビプビいいん♪」

「あはは ホント豚そのものね あら？ アサギ鼻毛丸見えよ はっずかし〜」

「ぶひいい、やめろおおお みるゆなああ」

「ほら それじゃあ豚にぶさわしい餌をあげるわ さあ私の肛門をお舐め！ 雌豚！」

「く、くひまんこらと… おによれえええ るごまれもひとのかりやだを… おびよる… おおおのほおおん★ おぼろのひんぽおおお♥」

「キャハハ舐めてる 舐めてる
あのアサギが私の尻穴舐めて
チンポギンギンに勃起して
マンコからは
ウレションまでしてるわW」

「おお…ダメ…
お、臍の肛門を舐める
なんてそんなの
ダメだ…ダメなの
にいいい〜」

「おおお入ったああ
臍の肛門に私の舌がああ〜
おお何これ臭い…苦い…
なのに興奮する…チンポ
チンポ勃起する〜☆」

「どう？改造されたその舌は？
クリトリスみたいに感じるでしょ？
しかも味覚はザニメンや糞が二番
美味じく感じるように調整されてるのよ♪」

「ひよんなああ…
くそおおおおぼろおおお♥
おお糞穴美味じすぎるうう★
臍の糞穴〜糞穴ああああ♥」

「おおダメ…
糞穴美味しい…
おほおお
私、臍のウンコ
舐めてチンポ
興奮させてるうう…
カウパーダダ漏れえええ♥」

「おおおいぐうう
臍のウンコ舐めて
いぐうう
ウンコ舐めていっっちゃううう♥
舌チンポでいぐううう♥」

「キャハハイったwイったわw
あのアサギが私の糞舐めでイってるわw
あーいい気味ww
よかったらこれから毎日
糞をご馳走してあげるわよ♥」

「アハハ
何アサギ挿入しただけで
イっちゃったの？
ザーメンするごい勢いで
でてるわよ」

「まあアンタがいこうが
どうでもいいわ
構わずガンガンケツを
掘つであげ・る♪」

「あへえええ
やめろおおお
おほおおおおケツううう
ケツしゅごいい
おほほおおお♡」

「それじゃあケツ穴掃除の
ご褒美をあげるわノ
四つん這いにならうてケツ
つきだしなさい!!」

「それっ!!」

おほ〜♪

「おほおおお腰が勝手に動いちゃう…
おほおお長チンポの先が床にこしゅれるう
裏ズジズリズリこしゅれるう♡
チンポタヌ♡チンポだめ♡
チンズリ♡ケツハマ♡穴ハマ♡チンズリ♡
どっちも気持ちいいいい♡」

「ケツにチンポおおお
臍のチンポきたあああ
のおおおお♡」

「いぐいぐうううう悔しいのに
チンポ勝手にいつちゃううう
前立腺こしゅられて
チンポミルク心太みたいにお
しだじやれるうううう☆」

「アハハ何アンタ？最初の威勢は
どうしたのもっとがんばりなさいよ
それぞれそれ〜!!」

「おほおお…もう糞穴つくなああああ
のほおおおおおチンイキ止まんない
床ズリぎもぢよくて腰止まんない♡
ザーメンどっぴゅんどまりやな〜い
チンイキぎもちいいいい♡」

うほ♡
うほ♡

1時間後

「ふう…ちよつとやりすぎで疲れちゃったわね今日はこれくらいにしどこうかしら何？あなたケツ穴ガバガバになっただんじゃないの？糞が垂れ流しになってるわよ♡」

それじゃあ最後にその汚れた体を私のザーメンで綺麗にしてあげるわほら笑顔でダブルピニスの格好でオシッコ受け止めなさい

「あへえええぴーしゅ♡びーしゅ♡」

あへへ

「アハハ糞しながらピニスしてるなんて最高に無様ね♪それじゃあ出すわよ♡」

「がぼごぼおおおお腫のしっこおおおお★おおおおシッコ美味しいいまだいぐううう♡糞しながら小便のんでまだいぐううう♡」

「おおお母乳もウンチもザーメンも小便も全部でちやううう♡あへええええ♡」

「あー面白かったwそれじゃあ私はもういくわねいるいる忙しいの」

「そうそう言い忘れてたけどアンタを捕らえたあとに潜入してきた、さくらと紫…それにアスカだったかしらそいつらも捕らえてオニクたちに調教させてるところよ♡今度合わせてあげるわ」

「あっ行く前に命令してあげなくっちゃ…次私がくるまでずっとそこでオナニーでもしてなさい猿みたいだね♪食料はそうね自分の出したもので適当に食い繋ぎなさいじゃあね～アハハハハ♪」

ムリ

ムリ

びゅるうう

「オラオラもっといい声で鳴きやがれこのメス隊対魔忍が！」

「くそおお、キサマら覚えている必ず殺してやる～
楽に死ぬると思うな～
おおおケツ穴ほじる～」

うぎい

「ぎゃびいいい叩かないで…
おおチンポそんなに吸い付いちやだめ～」

「ぎゃはははケツ穴掘られてザニメシ射精しながら
凄まれるなんて怖すぎだぜえ～」

あん

「あへええお尻ホジホジしちやらめ～
ケツ穴いっちゃうよ～」

パン

じゅぽ

「それじゃあ殺される前に
しっかり殺してやらなきゃな！
ソラソラ！」

じゅぽ

「ぐおおおやめろおお
いぐうう痛いのにいぐ～
尻叩きぎもちいいい★」

びゅん

「ぎゃはははまた叩かれてイッたぜ
この対魔忍どもまじで
ドマゾに改造されてんだ
なこいつらw
いい気味だぜ糞対魔忍!!」

「おおおやめろおお
もうケツを叩くな～やめろ！やめて
くれ～
イってしまうケツ叩きでまた
イってしまう～マゾアクメ
くる～もうイギたくない～★」

「ぎゃびいいいムっちゃん私もいっちゃう
痛いのもちよくて私も
マゾアクメきちゃ～
いぎゅうううう～」

あん

う

「1週間後にはマダムや皆にお披露目だ
それまでしっかり寝てやるから
覚悟しやがれ金玉ドマゾ対魔忍が！」

「さあお前たちのメス豚奴隷としてのデビューだ張り切つていけよ!!」

「あらあらこれまた随分と可愛らしくしあがつたものね!!」

おそして披露目の目

「ブヒブヒ...うら...こんな屈辱...」

「ふごふごおお」

オフ糞オゴゴオツオオゴ

「おら!-どうした声が小さいぞメス豚! 会場に響くくらいに大きく泣け!」

「は、ハイごめんなさい」

「誰が普通の人語を許可した語尾にはかならずブヒだ!!」

「も、もうしわけありませんブヒ...」

ぶぶぶひひひいひひいひひいひひい

「ギャハハいいぞメス豚~もっとブヒブヒ鳴いてみせろ~」

「うらうら...糞...誰が...でも...くそおおチンポ疼く...チンポほしい...ブヒ...」

「よーしお前たちそろそろチンポががほしいか?」

「よーしチンポがほしけりや教えた通りにまずは挨拶だ」

「うら...あれをホントにするのか...ブヒ...」

「ぶひひいほしいぶひひい...」

クククク

あひひひ

「うう…ピ…ピース★同じく、ノマドの
新人チンポ退魔豚の紫だブヒ♡」

「あへええ♡ピース★対魔忍あため、
ノマドの新人オチンポ退魔豚の
さくらブヒ★」

「みでの通り恥ずかしい
包茎チンポだブヒ♡
一番感じるのはケツ穴
のだ変態のマゾ豚だブヒ♡」

「全身オマンゴみたたいに感度改造済…
ズルムケチンポでご奉仕するブヒ♡」

「まずは挨拶代わりにアへ顔
チンポ踊りをご披露するブヒ♡」

「包茎おチンポぶるん
ぶるん★」

「ズルムケおチンポ
ぶるんぶるん♪」

「チンポ♪チンポ♪
おっちゃんぽ〜♡
チンポブルブル♪
ご奉仕がんばるゾー♪」

「チンポ♪チンポ♪
ブヒン♡ブヒン♡」

「ぎゃはは なんだアレ
馬鹿みて〜w」

「くそ…チンポのためにこの
ような屈辱…耐える…
耐えるんだ〜」

「よーし、よくできたなメス豚共
ご褒美のオークチンポだ」

「あーん…チンポ〜
チンポはやくほしいブヒ〜♡」

「ううう…くそおお…
ありがとうございます
チンポに感謝するブヒ〜」

「ガハハそれじゃあその豚面にたっぷり
くれてやるから感謝しろメス豚!!」

「そんなに頼まれたら
しょうがねーな
それじゃあ射精するから
たっぷりその口便器で
味わいなW」

「さーでそれじゃあ
チンポ豚ちゃんに
餌をくれてやるかな」

「ほれ口を両手で広げて
舌をだして準備しろ
豚便器ちゃん」

「ブヒブヒ、ハイ
メス豚はおちんぼ
しゃまかられる
ザーメンのこさず
ロマンコ便器で
のみほしまひゅうう♡」

「ぶ、ぶひ♡
こ、こうれひゅか？」

「はーしいぞ
それじゃあ
メス豚らしく
オネダリしてみせろ」

「ぶひっ♡ぶひ♡
えへへええめしゅぶた
じゃくりゃのおくち便器
にみなしゃまの
ザーメンめぐんでくらひゃい♡
ぶひ♡ぶひん♡」

「うへええええ
ぶひいいいん♡
ザーメンひたああ
ブヒブヒ美味しいれしゅ
ザーメンおいしいい♡」

「豚にザーメンめぐんで
いたりゃきありがどう
ごりゃいまひゅうう♡」

「あへええもつとくりゃ
ひゃいザーメン
もつとおお♡」

「ふごっ！ふごおん♡
はにゃからりゃーめん
きたあああ
くしやいいい♡
くじゃくでメス豚
さくらいつちやうぶひい
ぶひいいいん♡」

「ぎやはは
ゴクゴクのんでるぜ
このメス豚。
まったくドスケベ豚
だな」

「それじゃあ今度はその
豚鼻にもくれてやるから
鼻からザーメン飲め
豚さくら！」

(だめだ我慢できない...
おおススス
匂いだけで気をやって
しまいそうだ...
それにこっちの
チンポの味も
美味い美味すぎる...
オークのチンポとは
こんなにも
美味しいもの
だったのか...)

(これはこの
チンポの
チンカスの
匂いか...)

「ぐっやめる!
乱暴に扱うなブヒ
もっと丁寧に
メス豚を扱え
ブヒ!!」

「おら!お前も
さつさとしゃぶれ
メス豚!」

「ぎやはは
こいつ嫌そうなくせに
フリしてたまで
鼻の穴にまで
チンポ擦り付けて
喜んでやがる
豚そのもの
じゃねーかw」

(なんという臭さだ...こんな
チンポ臭は初めてだ...
臭すぎて...すううう
はあなんて芳しい...
これは豚鼻に直接「ぶひっ?
塗りこんだら
どうなるんだ...」なんだこの匂いは...

(だまりえこんなチンポの
匂いにメス豚が逆らえる
わけないだろ...悪いのは
お前たちのチンポだ!
この臭くて美味すぎるチンポだ!)

「ハイハイ分かりましたW
それじゃあ
その便器顔にたっぷり
ザーメンくれてやるよW」

「そらよそんなに鼻がいいなら
両穴にチンポ汁ねじ込んで
やるよ それぞれ!!」

「ぶほほおおお♥」

(両穴だと♥それはダメだ
すぐすぐイッてしまう
おお鼻でいく私の鼻はマンコに
なってしまったのか鼻マンコおお♥)

「ぶひい♥ぶひよおお♥
チンポ汁いっぱい くさ~い
くさくていぐううん♥
メス豚この臭い匂いと
味だけでいぐらでもいっちゃう
ぶひい♥
もっとおおおもっと
チン汁だすぶひい♥」

「おおすげー吸い付きだ
豚鼻がよっぽどいいらしいな」

「うるひやいらまれええ
らまってこのメス豚の顔マンコに
チンポこじゅれえええじゅるうう
おおチンポおおお
チンポ美味しいぶひい♥」

「みろよこの顔 まさに
顔面マンコだなW」

「ハイぶひっ」

「よしそれじゃあケツ穴セックスの準備だ...ケツを拡げてこっちにき出せメス豚共」

「こ、こうか
ブヒか？」

それじゃあお前たちの
大好きなザーメンを
ケツ穴から注入してやる」

「く...糞をしいいブヒ？
あ、ありがたい...早く...
早く雌豚の糞穴にザーメン
浣腸を注いでくれた
たのむブヒ...
浣腸がほしくたまらない
んだ...ブヒ...」

「腹の中に溜まった三週間
分のクソをブヒブヒ泣きながら
全部ひりださせてやるぞうだ
嬉しいか？」

「あーんやっとうんちの
許可がもらえるんですか？
嬉しいブヒ〜〜」

牛

豚

牛

豚

「よしそれじゃあ
注いでやるぞ
ありがたいケツで飲み干せ！」

「おほおおザーメン
ケツ穴にきく〜
ブヒブヒ〜」

「ぶひいケツ穴ザーメン
美味しいブヒ〜」

ぶひい

うん

「感謝！感謝するブヒ
もっともっといっぱい
ウンコできるように
注いでブヒ〜♡」

「どうだ？
ケツから飲む
ザーメンは美味しいか？
美味かったらお礼を言え
雌豚！」

ぶひい

うん

「おおおでりゅでりゅでりゅうう
ウンコおおおお♥」

「ぶひいい～肛門ひろがりゆ
二週間ぶりのウンコでりゅうう★」

「よーしいいぞ
ヒリだせ雌豚」

「おおおみりよおおおお
コレが二週間分の雌豚対魔忍
の本気のウンコだあお★」

「ぶひよおおお
ウンコブリブリ
とまりやな～い
おほおおウンコで
チンポ感じちゃうう♥」

「ぶひいい
見てみて～
雌豚の一週間ためたに
ためた極太ウンコ
おおおお♪」

「おほっ★おほっ★
ぶほほおおおん♥
極太ウンコで前立腺こしゅれ
ちゃう～ウンコでチンポ
いっちゃんまーす♪
あへえええシッコも
もれちゃう～」

「ウンコ♥ウンコ♥ウンコおおおお♥
ウンコでチンポいぎまぎゆるうううん♥
ぶっひいひいひい★」

「ぎゃははは
なんだアレWおげーぶっとい糞だなW
糞豚対魔忍には相応しいぜW」

「ぶひいいん♥
ウンコしたばかりの
雌豚の汚い臭いケツ穴にチンポ
ぶっさして頂きありがどう
ございますブヒ〜★」

「ぶひいいオーク様の生チンポきた〜♪」

「それじゃあ空っぽになった
糞穴にチンポとザーメンをぐれて
やるぜよるこべ雌豚!」

「おほおほ〜
ぶほおほお
空っぽの糞穴にチン
きくううう♥♥」

「ブヒ〜ブヒ〜
チンポもつと チンポ〜♥」

「ついでに顔にもぶっかけてやるよ
上の口でも!ありがたく受け取れ雌豚!

「それ!まずは一発目の
ザーメンだケツで
ごくごく飲みやがれ!」

「ぶひいい
空っぽの腸に
あつちゅいザーメン
きたあああ〜
おほお上からも
ぶっかけ〜
おほおお
ぶほおおん♥」

「ぶひいい
ザーメンのみます
ケツ穴で飲みます
ぶほおおん♥
ケツ穴にもお口にも
ザーメンいっぱい
のまして〜」

「こっちも射精する
豚のチンポから
ザーメン大放出
ぶひいいい♥
あべええオッパイからも
ザーメンみたいな
ミルクがふきだしゅ〜
あべええザーメン臭で
豚鼻マンコもイキそうブヒ〜♥」

「ぶほおお
射精る射精るでちゃうう〜
さくらのチンポもケツ穴
掘られてザーメン大爆発〜♥」

「ギャハハそういやコイツら
鼻マンコだけでイけるんだったなW
そうだこいつらの鼻マンコ同士で
セックスさせてみようぜ!!」

「面白れ〜そりゃいいなW」

「誓う時はあっちで撮影してるカメラに向かって笑顔でダブルピースを忘れるなよ！」

「よし、それじゃあ射精と同時にこれからはクマドの忠実な雌豚として生きて誓ってみせる!!」

「よし、どうだ雌豚共？自分たちの立場がこれで理解できたか？」

「プギ〜身にしみて理解できましたプギ〜」

「プギー♥プギー♥わかりましたぶぎいい♥」

「ブヒブヒわかりましたブヒ♥雌豚はザニメンとともにクマドに忠誠を宣言させていただきますプギー★」

「おほおおぶほおおそれでは誓わせて頂きます〜★」

「ぶぎよおおおイクイクいぐうううザニメンどっぴゅんそれでは宣言します〜♥」

「同じく紫も対魔忍を完全引退してこれからはクマドの忠実なるチンポ豚として一生を捧げることを誓うぞ!このザニメンと極太チンポにかけてかならずだ!ぶっひ〜ん♥」

「ブヒー♥さくら対魔忍を完全に引退しこれからはクマドの共同フタナリ雌豚便器として生きることをこのザニメンに誓わせて頂きます♥ブヒブヒブヒ〜♥」

(臆)「アハ、お前たちよくやったわ…しかし部下にしようと思ったけどごんなんじゃ役にたちそうもないわね…そうだとしたらはこのまま便器にじてクローンを作ってそいつらにアサギの調教をまかせてみようかしら、うんそれがいいわね♪アサギの反応が今から楽しみ♪」

数日後

だあめい
えいえい
えいえい
えいえい

「おほおおお
腋をそんなに
ペロペロ
舐めちゃダメ…
おおお腋がマンコみたいに
感じる～～!!」

「さ、さくら、紫
もうやめて…
三人とも
私がわからないの!?!」

「オ、オリジナルってまさか…」

「あーん？お前なんか
知らねーよw
オリジナルの関係者か？」

「そ、そんな元の三人はどうなったの？
おひいいい～～!!」

「そうだよアタシ達は
オリジナルのクロニンさ
でも記憶までは引き継いで
ないよ三だからババア
のごとんがじらねーよ!!」

「ああ…？知らんな、どっかでオークの
便所にでもなうでんじゃないか？
しかじアサギだったか？おまえ腋を
洗ったことあるのか？鼻がまがりそうな臭だぞ…」

「ホント、クッサいしょうがない
からアタシらの舌でババアの
脇マンコ掃除してやんよ
感謝しろよババア!!」

「うるさい！口答えするなこのババアが！」

「ひいいいゴメンなさい
ババアです…ババアのくせに
口答えしてすみません…」

「そんなババアだなんて
まだ私はそんな年じゃ…
それに腋の臭なんて
嗅がないで!!」

「あーなんだ調教はまだ始まった
ばかりなのにもう根を上げるのか？
雌豚ババアが…貴様チンポに根性が
足りてないんじゃないのか？」

「だからチンポグリグリ
するのやめて～また
イっちゃり…
もうイクのつらいの～
イクすぎて
チンポ痛いよ～」

「アハっそれじゃあムっちゃん
この雌豚ババアのケツ穴に
ムっちゃんのチンポで
根性ザーメン注入してあげればw」

「そうだな♪それがいい♪
喜ぶ雌豚貴様の汚いケツにチンポを
ぐれでやるぞ!!」

「どうだ雌豚！私のチンポの味は？」
ケツが気持ちよくてたまらんだらう？」

「おほおおやめて〜♪
ケツ穴は感じすぎるの…
ケツ穴チンポでホジホジしちゃダメ〜♪」

ああん？何がダメだ嘘を言うな
声が弾んでるぞ！
それにこの締っけはなんだ！
貴様のケツは私のチンポを
を求めてどンドンキツく
からみついでくるようだぞ♪
それ♪それ♪それ〜♪」

「おほおおそれは〜
ケツ穴改造されたから…
ケツマンコに改造されたから〜
おほおお♪おほおおお★」

「突かれるたびにチンポ
内側からも外からもごしゅられてる〜」

「うん？ああ
臍様に聞いてはいたが
この体制だとその長チンポが
突くたびに床に擦れている
わけか…くくく…つくづく
滑稽な雌豚だな…
なんだアサギ？床にザーメン
ぶちまけて？床を妊娠でも
させるつもりか？」

「おほおおチンポ床ズリ
ぎぼちいい〜床チンポ
ズリズリいいの〜
ケツマンコもぎぼちいいの〜」

「もう…しょうがないな〜
それじゃあしばらくこつち
で我慢するかな…
オラ！パパアじゃぶれ！」

「くくく…ようやく
素直になってきたな…
まだまだいくぞ！
ソレソレ！」

「おお？このパパアフェラ
うまいじゃん♪
さすが年季が違うってかW」

「まあ待て…
こいつのケツ穴はどうも私のチンポ
に具合がよすぎてな…相性抜群って
やっだ…
もう少しだけ…」

「ねえ、ムッチャン
そろそろ代わってよ
アタシもそのパパアの
ケツ穴マンコに早く
チンポバメハメしたい…」

おほおほ♡♡

おほおほ♡♡

おほおほ♡♡

おほおほ♡♡

おほおほ♡♡

おほおほ♡♡

おほおほ♡♡

「何呼び捨てにしでんだ
さくら様と紫様だろが!!」

「それじゃあ私は今度
はマンコを楽しむとする
かな…ふむごうすると
巨根チンポも舐められて
なかなかいいポジション
だな…」

「ふう、やつどケツ穴
空いた…
それじゃあさっそく
チンポぶっ刺し〜♪」

「おおチンポ二本同時
…コバコすんごい♥
チンポすんごい
さくらと紫のチンポ
すんごい〜♪」

「あへええごめんなさい…
さくら様と紫様〜」

「おほおほお
日本同時にぶっどい
チンポきた〜♥♥」

「それでいいんだ次呼び捨てに
したら殺すぞ!それ!
ザーメン射精すぞ!」

「おほおほ★熱いさくら様と
紫様のザーメンあちゅい〜♥」

「アホ公大喜びじゃん
このオバさんもう、
よっぽどアタシらの
チンポがいいらしいね♪」

いぐううう
いぐううう
チンポいぐうう♥
チンポ気持ちいい
チンポ最高〜♥

「いぐいぐいぐううう♪
ザーメンマンコにどっぴん
されてアサギのチンポも
どっぴゅんザーメンで〜
変態マゾ汁ビューつで
でちゃう〜♥」

「しよ、しよんなこと…
おおおチンポじゅごいい〜
チンポまたイク〜」

「ギャははすげー射精してる
よこのババア
もうアタシらのチンポ無しじゃ
生きていけないんじゃないね?」

「うーん? そうなのか?
アサギ?」

「OKむっちゃん! 臍様のために
このババア三火でがんばって
調教しよう〜♪」

「イキまくってるくせに
まだ抵抗する意志があるのか…
まあいいだつたら私達のチンポ
がなければ生きていけなくなるよう
舐けるまでだ…なあ、さくら!」

「よし雌豚小便垂れ流しながら
臃様に今日の仕事の報告だ」

「今日は臃様が視察にきてるんだし
アタシ達に恥をかかせないよう
きちんと挨拶してから報告するんだよ
豚ババア!」

「ハイさくら様、紫様…それではさっそく
オシッコしながら…
おひさしぶりです臃様…
変態オチンポ対魔忍のアサギです」

今日は洗脳した対魔忍の生徒達
のチンポシゴキ指導を1時間ほど
行いました今は生徒たちに自主
オナニーを言い渡して休憩中です。」

「アラアラ、ご苦労様ね
毎朝やってるの?」

「ハイチンポシゴキは
雌豚対魔忍の基本なので
毎日かかさず指導してます
あ、でももうすぐ生まれるので
しばらく産休する予定です」

「そういえばそのお腹…
おめでどう妊娠したのね?」

「ハイ、ありがとうございます
さくら様と紫様のおかげで
無事に孕むことができました。
父親は誰かわかってないんですが…」

「アハハそれは
大変ねシングルマザーね」

「アハハよくやったわね
さくら、紫
あー可笑しい…ホント最高」

「どうですか?臃様
すっかり従順になった
でしょこの雌豚ババア」

「ええ最初は
思い出したように抵抗して
たこともあったんですけどね…
毎日交尾して妊娠させたら
諦めたようです♪
アタシかムっちゃんか
こいつ自身のザニメンで
孕んだのかわかんないですけど
…豚やオニクどもやらせましたし
そっちが父親かもじれませぬね♪」

「しかしあのアサギをよくここまで
従順に寝けたわね淫紋の力も使って
ないようだし…」

「まあそれは生まれたら分かるでしょ
豚が生まれたら最高なんだけどね♪」

「アレはオナホにするのも飽きたし
オークの相手で豚にも
慣れたようだから
豚の義足をつけて本物の
豚達の仲間にしてあげたわ」

ぱやぱや

アッ

アッ

アッ

しゅ
しゅ
しゅ

しゅ

しゅ

あーんダメしてる
いまだから
最中よ…

ちゅーぽ

「うへ〜それは凄いですね♥さすが臃様
やるのがエグイっす」

ダメよちよと
なめちやダメ

「おほおお
ぶほおおん
豚鼻まんこ
ぶいぐういん!

「最初は嫌がってたけど
すぐに仲良くなって
子豚にオッパイミルクや
チンポミルクをあげるよう
になったわねどうやら途中
から自分のことを本物の豚
の奥さんだと思い込むこと
で逃避したようね♪」

「あら?まだそんなもんじゃ
終わらないわよ?まだ続きがあるわ」

ぶぎい
豚ちんぽ
きもちいい

「遺伝子改造してたからその後
豚の赤ちゃんを妊娠してね…まあ
面白いからそのままノマドの
見世物小屋でデビューさせてあげたわ♪」

「大勢の見ている前で
ウンコやオシッコしてる時でさえずっと
ブヒブヒ鳴きながら交尾し続けてたわね♪
実に滑稽なみせもの大ウケだったわね」

豚1号

「最高なのはアスカの糞は豚の大好物
（だったんだけどね自分の糞を豚があまりに
ガツついて食べてたから、
…まあよほど美味しそうに見えたんで
しょうね…）」

「最後はケツにチンポ突っ込んだまま
豚といっしょになって
自分の糞おいしそうに食べてたのW
あれには客も大爆笑してたわよ♪
私なんて笑いじぬとごろし
だったわ♪」

「うへ〜そいつは見てみたいかも
今度見に行ってもいいですか？」

「ええいいわよ
ぜひ見てらっしゃい
きっと面白いから♪」

「そうだな腹を減らしてもうまちきれないようだぞ」

「さてとそれじゃあこっこの雌豚ちゃんにも餌あげようかな…」

「ハイ♪雌豚アサギは皆様のチンポがほしくてもうたまりません♥」

「うほおおお♪皆様の巨根チンポが3本同時に…雌豚大感激です♡嬉ジョンしちやいそうです」

「まったくしょうがないわねほらお待ちかねのチンポだよ！たっぷりたっぷり味わいな！」

「それじゃあ失礼しておほおチンポ美味しい〜♡舌チンポだけでいっちゃいます〜♪」

「ふふふ…上手いじゃないアサギさすがに馴らされてるわね…それじゃあさっそく飲ませてあげるわ私のザニメン♪」

「3本同時に啜えて飲み込みなさい…できるんでしょ？」

「はいメス豚には3本同時にチンポ啜えるなんて朝飯前です…それじゃあいきますね」

「アハハ何アサギその顔今あんたすごいことになってるわよ！あーおかしー…そうだそのままピースしてみなさい♪ピースして3本くわえたそのカバみたいな口にザニメン射精してあげるわ♪」

「もごおおおどうでしゅか〜おほおおひんぽごおひいひい♡」

「はひいこうれりゅか〜？ひーひゅ〜♪」

「キャハハ最高〜それじゃあ射精するわよ…三人ともいいわね…イクわよ…それっ！」

「おひいひい★じゃーめんひたあああおいちいひい♡」

「金玉キク〜♡」

「うぎいいい
両サイドから金玉
ちゅぶじゃれる〜キク〜♡」

「それじゃあ笑わせてもらった
ご褒美をあげるよ
それっ！オバさんの大好きな
金玉の伝マ責めだよ」

「あひいい有難うございます♡
二つの金玉両サイドから
電マでぐりぐりされるの雌豚は
大好きでしゅ〜おほおお
金玉だけで手放し射精するの
すんごく気持ちよくて
だいじゅき〜♡」

「ほらほら金玉の
刺激だけで臃様の前で
射精してみせろ雌豚が!!」

「あらあら
アサギったら金玉の
刺激だけでイッてるの？
以前は金玉の強い
痛みでイクようには
してたけど…」

「おほおおチンポミルク
手放し射精〜
おほほおお♡」

「あ〜それはですね臃様
この豚今金玉感度を
以前の改造からさらにの5.0.0倍
にしているんですよ…それに伴って
精子の生産量もすごいこと
になっちゃって常にザニメン
で金玉パンパンだから簡単な刺激
だけですぐにドバドバ射精
するんですよ」

「おい雌豚
イキすぎて
ケツのデルドがずり落ち
てるぞ…もっとしっか
りケツ穴絞めろ!!」

「まあ全身くまなく
感度調整済なんで
全身オマンコみたい
なもんですけどね♪」

「あ〜聞いちゃいないね
ホントだらしない
雌豚ですいません
臃様」

「あ〜落ちちゃった
これは今日臃様が帰った後でお仕置き決定だね…」

「おほおほ、お二人の兜合わせ
サンドきたああ♡
金玉もいいけどやっぱり
龟头が一番気持ちいい～
おほおほ
ぎぼちよすぎます～♡」

「まあお仕置きの前に
私たちが一発抜かせてもらおうかな…
いぐぞさくら」

「OKムっちゃん」

「三人で龟头を
グリグリせめてあげるから
臈様の前で盛大に
糞をぶちまけながら
イッて見せる
パパア！」

「チンコ気持ちいい
チンコ♡チンコ♡チンコ～
やっぱりチンコがNO1♡」

「おほお糞が出ます
糞がでる～ウンコ♡ウンコ♡
ウンコ～♡極太ウンコでりゅう～
雌豚アサギは糞をぶちまけながら
派手にイカせていただきます～★」

「おほおおお★でりゅう
糞とオシッコ漏らしながら
ザーメン大放出～
おへええええ★オッパイザーメンも
でりゅうううあへええええ♪
糞チンポアグメぎぼちいいいい♡
射乳アグメぎぼちいいいいのおお♡」

ウンコ♡チンポ♡オッパイ
全部ぎぼちいいいいいい♡
いぐううううん♡

「アハハ面白かったわよアサギ
それじゃあ さくら、紫たまに様子を見にくるから
後よろしくね」

「ハイ！臈様お任せください」

ぐりぐり
ぐりぐりぐりぐり

「おほおお
射精のたびにウンコが～
ウンコがどまらな～い！
ウンコ無理無理
いっぱいでありゅう
私うんこ製造機に
なってる～♡
ウンコブブリ～」

「おほおイグ～また
いぐうう
このオナホ便器
すんごいのおおお♡」

「おほおおチンポにイボイボ
からみつく～
あへええチンポ
ムケて気持ちいい～」

「アハハ気にいたかアサギ
その便器に接続すると
ウンコをイクたびに
無限にひり出せる
ようになってるんだ
仕組みはよく知らねー
けどなW」

「おほおお
てごとは無限にウンコでイケ
るんですね？
最高この便器最高です～♡」

「なあさくらよ…
これは本当に罰になってなくはないか？
喜んでるじ…むしろ褒美にじゃあ…」

「まあしょうがないよムっちゃん
もうコイツ痛いのも気持ちいいのも
どっちもおんなじになっちゃってるじ…」

「あへえええ気持ちいい
この便器だいじゅき～結婚しちゃう
私もうこの便器と結婚しちゃう
この便器さん私のお嫁さんに
なっで～♡」

「あえてするのなら何もしない
ことが罰なんだろうが…
それだと面白みがないしな…」

「アハハハマジうける
便器に求婚はじめちゃったよ
このオバさん
まあ楽しめたからいいんじゃないの？」

「そうそう…それに
このマゾ完全放置しても
勝手に射精するだろうじ…
射精禁止にしたら
それこそあの無限精子製造
金玉は破裂しちゃうだろうしね…」

「妊婦のくせに
ウンコ絶頂しながら
便器に求婚とは…
もはや雌豚ですらないな
これはもうお似合いの
オナホにでも
改造すべきか…」

「おいさくら
何かはじまったぞ…」

「お？いいね～麗様の許可が
おりたらそうじょうよ～楽しみ～」

「コレこうして
巨大金玉がツファア
みたいにフカフカで
座り心地もなかなか
いいんです…」

「ほらこうれこうして
動くたびにザーメン吹き出す
んですよ面白いでしょ？」

「あらそれはいいわね♪
それにしてもまたザーメンの
量が増えたんじゃない？」

「ふふふ
じかじ貴方達から
アサギをオナホにするって
アイデアを聞いた時は
びっくりしたけど
これは見事ね♡」

「えへへ
まあでも
こうやって使う度に
ウンコするのは面白いけど
後始末が面倒ですかね…
まあコイツに食わして
始末してるんですけど…」

「どうです？ 臙様
先日やっと完成したんですよ
このオナホ」

2ヶ月後

「さくら…説明もいいが
そろそろ私にも使わせて
くれ私はまだ使ったこと
ないんだそのオナホ…」

「ダメダメ～まだ説明の
途中だし♪それに
次に試してもらうのは臙
様でしょ？」

「そんな～
早くしてくれ～」

「あらそういう機能もあるの？
それは便利ねそれじゃあ催して
きたしさつそくオシッコでも
飲んでもらおうかしら」

「お飲みアサギ!!」

オナホBBA

「あべえええ
臙様のオシッコ
ありがとうございます～
あべえええ臙様のオシッコ～
(ゴキョゴキョ)」

「ホント嬉しそうに飲むのね
これからのオナホ人生がんばってね
アサギ!!」

「ハイ臙様、オナホはこれからもがんばります～」

「アハハハいい返事ね 最高よアサギ♡これからももっともっと楽しませてね♪」

あとがき

初めての人は初めまして…久しぶりの人はお久しぶりです、生猫亭です。

本書は夏コミ用に作ってた本だったのですが、なんだかんだで冬までかかってしまいました…しかも締切ギリギリ…」

もっとやる気を出さないとまずいと思うのですが…この本もフルカラーで44pほどを目指して作ってたのですが結局36pに…(一応実は現行はオールカラーで描いてます…。今印刷でどのような結果になるのか実は震えていいところです。印刷が濃すぎたらどうしようって(;´д`)

加筆や修正をしてだすと思うのですがいまから突っ込むとコミケに間に合わないし予算的にもどうかってところなのでカラー版はDL専売にするつもりです。内容的にほとんど同じ本を買って頂くのは気がひけるのですが、もし興味があればチェックして下さいとありがたいです。

まあ出るとしても早くも1月末～2月頃だとおもいます。
(加筆内容によってはもう少し先?正直どうなるか不透明ですがせっかく全部カラーで作ってるのでなんらかの形でだしたいです。
出すなら最低でも数ページの追加をするつもりです。)

本当はこの本もださずに最初からカラーでDL用にしようかと悩んだのですが夏冬連続で本がでないというのもかなりアレかと思いだすことにしました。

それでは今回はこの辺で失礼します。

この度はこのような本をお手に取って頂きありがとうございました。

奥付

誌名：フタナリ対魔忍 雌豚妊娠調教
発行：生猫亭
著者：CHAN SHIN HAN
発行日：2017. 12. 31
連絡先：necoconecosan@moon.sannet.ne.jp
印刷：金沢印刷